

## DF環境サロン

# タンザニアの 自然・環境・社会を語る



2023年 7月31日

DF 977 山本明男

© A Yamamoto 2023

1

## &lt; 目次 &gt;

- (1) タンザニアの紹介 (概要・歴史・経済・産業)
- (2) タンザニア・サファリの自然保全
  - ・ンゴロンゴロ保全地区
  - ・セレンゲッティ国立公園
  - そこで生きる動物・植物・鳥類など
- (3) マサイ族の生活 (マサイ村を訪ねて)
- (4) サファリでの宿舎・食事・エンターテインメント
- (5) タンザニアでのエコ活動 事例紹介  
タンザニアに進出する日系企業

© A Yamamoto 2023

2

## タンザニア連合共和国



面積：94.5万km<sup>2</sup> (日本の約2.5倍)  
 人口：6,3853万人 (2022年) 毎年3%程度増加  
 首都：ドドマ (法律上の首都)  
 ダルエスサラームが最大都市  
 民族：約130 (マサイ族他)  
 宗教：イスラム教 (約40%) キリスト教 (約40%)  
 土着宗教 (約20%：一神教)  
 通貨：タンザニア・シリング (1000円≒60TSH)  
 公用語：スワヒリ語、英語 (公用語)  
 GDP：世界で71位 (毎年5%程度で成長)  
 独立：1964年英国より (ケニア+ザンビア合併)

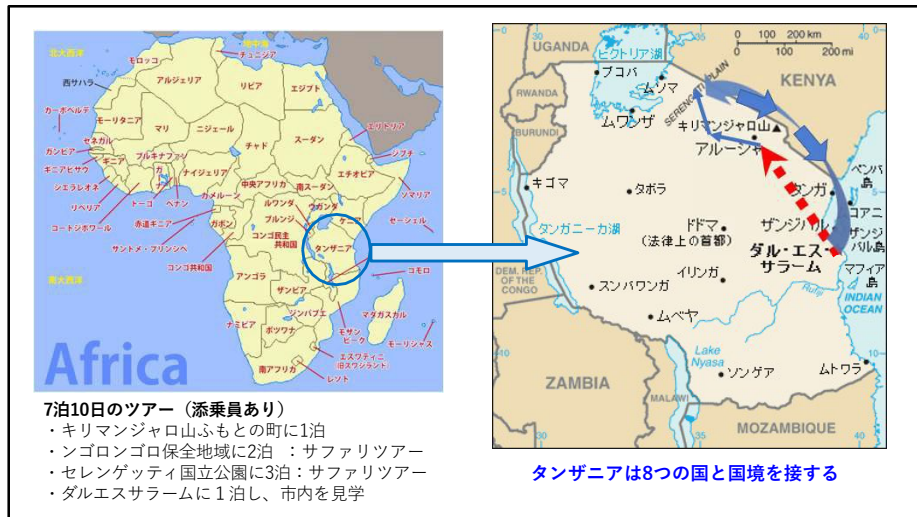
## タンザニアの経済・産業

名目GDP：580 億米ドル 一人当たりGDP：1,061 USドル (2018年)  
 GDP成長率：5.4% (2018年) コロナ禍は減速 人口成長率：3.1% (2017年)

タンザニアのGDPは農業が28%、労働人口の70%近くが農業に従事  
 農業はタンザニアにおける経済成長の核であり、貧困削減のため、タンザニア政府による農業開発が進められている  
 主要農産物はトウモロコシ、コメ、ゴマ、タバコ、コーヒー等  
 (キリマンジャロのコーヒーは日本でも有名)

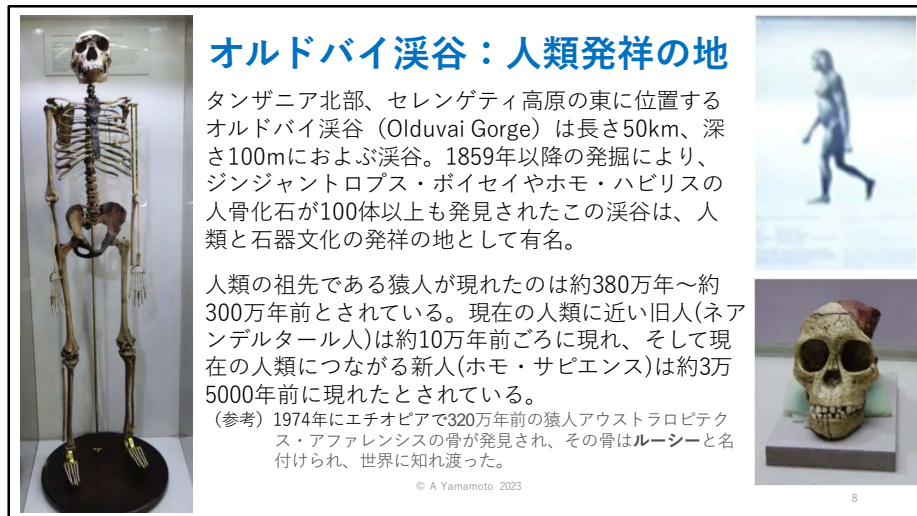
金の輸出が全体の約35%を占める (世界19位 2016年)

観光業は成長を続けており、2018年は150万人が訪れた (アフリカ大陸で10位)  
 世界遺産に登録されているンゴロンゴロ野生保護区やセレンゲティ国立公園では多くのアフリカの野生動物が棲息  
 ザンジバル島は保養と歴史探索で欧州からの観光客が多い



## タンザニアの歴史

- 250～200万年前 ホモ・ハビリスが現在のタンザニア北部に存在（オルドヴァイ峡谷で人骨を発掘）
- BC 10世紀頃 バントゥー族がカメルーンからタンザニア森林部に移住
- イスラームの到来 7～16世紀頃にかけてアラブ人やペルシア人が渡来しタンザニアに**スワヒリ都市・文明**を築く
- ポルトガル領時代 インド航路発見以降、16世紀から東アフリカ各地を制圧
- オマーン帝国時代 **17世紀以降アラブ勢力が拡大**し、ポルトガル勢力は駆逐され、19世紀以降はオマーン帝国の勢力圏に
- イギリス・ドイツ植民地時代 1880年代以降アフリカ分割で植民地が許可
- イギリス・ベルギー植民地時代 第一次大戦でドイツ敗北後、イギリスとベルギーの統治下で植民地化を推進
- 独立と連合 第二次大戦後、1961年タンガニーカ、1963年**ザンジバル**、合併したタンザニアがイギリス合意の下で平和的に独立



## タンザニア・サファリの自然保全

- ・ンゴロンゴロ保全地域
- ・セレンゲッティ国立公園
- そこで生きる動物・植物・鳥類など



「サファリ」とはスワヒリ語で  
「旅」を意味する言葉  
通常は  
「アフリカで動物を見て回る旅」  
をさす

### ◆ タンザニアサファリ地帯の気候

3月 ~ 5月 大雨季  
6月 ~ 10月 大乾季  
11月 ~ 12月 小雨季  
1月 ~ 2月 小乾季

### <サファリでのマナー>

- 決められた場所以外では車から降りない  
(ランチエリア、指定されたトイレ等)
- 動物が近くに来てでも触らない、エサをあげない、大声は出さない、刺激しない
- サファリ内では絶対にごみは捨てない  
植物、羽、骨などの持ち出しは禁止  
取っているのは写真だけ  
残っているのは足跡だけ
- 公園を管理するレンジャー等にはカメラを向けない、マサイの人々を撮影する際は許可をもらうこと
- 動物へのフラッシュ撮影はしない



トヨタのランドクルーザー（サファリ仕様）  
水深1mの中でも走行可能（ドライバーはマサイ人）



ンゴロンゴロ保全地区のクレーター  
周りは外輪山（標高2400m） 水辺にはヌーの群れ



## アカシアの木 Acacia

アカシアはマメ科アカシア属の木で**ミモザ**とも呼ばれる広葉樹。オーストラリアやアフリカ大陸に多く生育し、1000種類以上あり、主根が深く降水の少ない地域でも早く育つ。

高さは5m～10mにもなり、サバンナでは**キリンの大好物**。芳香のある黄色い球状の花をつける。とても固く丈夫で収縮が少なく、腐りにくいため、建材、フローリング、家具、紙の原料などに多く使われる。（マサイ族の杖もアカシアの木）

日本にあるアカシアは「ニセアカシア」と呼ばれ、明治時代に多く輸入されたもの。

（「アカシア蜂蜜」や歌の「アカシアの雨…」、「アカシアの花…」等はすべてニセアカシア）

© A Yamamoto 2023

31



## バオバブ

幹の直径10m、高さ30mにもなる巨木  
マダガスカル島に多く生息



## ユーフォルビア

サボテンのような多肉植物  
樹液は有毒で目に入ると失明する

## ソーセージツリー Sausage Tree

実の形がソーセージに似ている  
マサイ族の水筒に使われる



マサイの戦士は成人する日にこの実を発酵させた酒を飲む。生では強力な下剤。

© A Yamamoto 2023

33



## 黒檀 (コクタン、EBONY)

コクタンは、カキノキ科カキノキ属の熱帯性常緑高木の数種の総称。インドやスリランカなどの南アジアからアフリカに広く分布している。世界でもっとも良質の木であり、堅くて強靱、半永久的な耐久力、キメの緻密さ、油脂感触の出る光沢がある。古代から世界各国で家具や、弦楽器などに使用され、セイロン・エボニーは唐木のひとつで、代表的な銘木である。

© A Yamamoto 2023

34

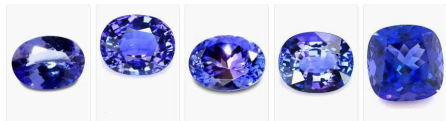
## タンザナイト tanzanite

1967年にタンザニアの北部で最初に発見された宝石でブルーサファイアに類似。地球上でただ一つの産出場所。マサイ部族民が偶然発見したという説もある。

1980年代よりアメリカで人気となり、世界的に認知され始めた。12月の誕生石の一つに追加。彩度が高くやや赤寄りの紫色の石は価値が高い。気持ちを落ち着かせる魔力がある？とも言われる。



タンザナイトの原石



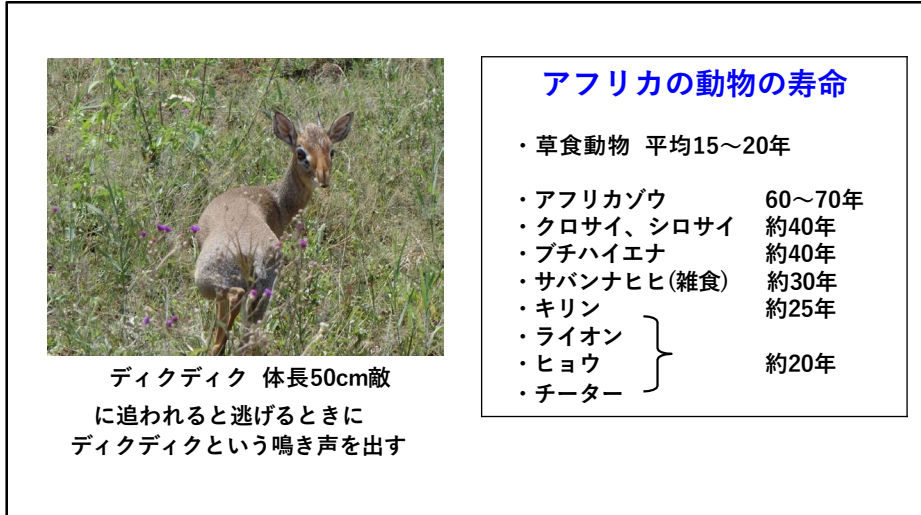
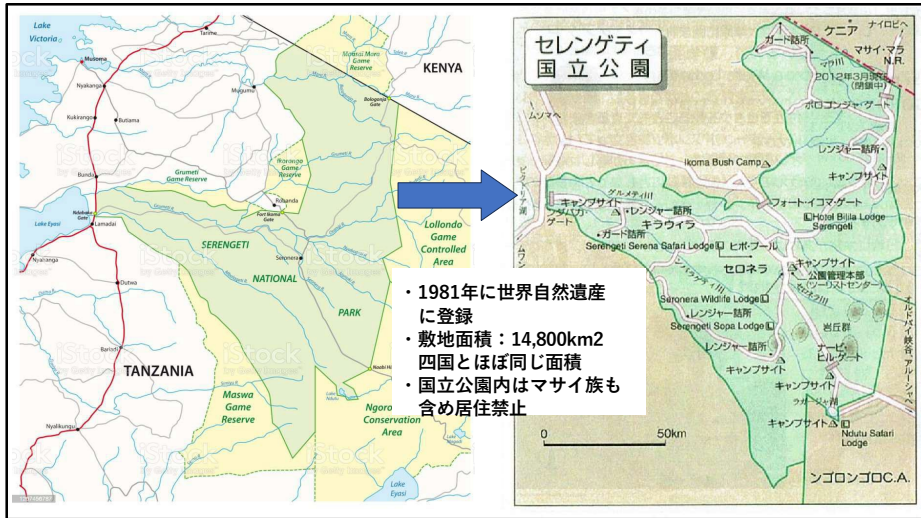
© A Yamamoto 2023

35

## セレンゲッティ国立公園



「セレンゲッティ」とはマサイ語で「果てしない草原」  
セレンゲッティ国立公園に入場するには  
すべての車は入場料を払い、登録が必要



### ヌーの川渡り

**150万頭以上のヌー（牛カモシカ）が食べ物となる草と水を求めて、毎年広大なサバンナを延べ3,000km半年かけて移動する。**  
 ヌーは50km先の雨が分かるといわれ、雨の状況により移動するタイミングが異なる。これに合わせて草食動物のシマウマ20万頭、ガゼル50万頭余りの大群が移動する。川渡りでは5,000頭余りのヌー等が溺死し、獣のエサとなり、生態系が保たれる。

© A Yamamoto 2023 48

ハタオリ

エジプトガン

ライラックニブツポウソウ

サギ

サギ

タカ

ヘビクイワン  
翼長2m 足で蛇を取り地面に叩きつけて食べる

ホロホロ鳥

エジプトガン

複数のメスと子供たち：“プライド”と呼ぶ

## マサイ族の生活

### <マサイ村を訪ねて>

### マサイ族 (マーサイ：マー語を話す人)

- ケニア南部からタンザニア北部一帯の先住民、現在推定20～30万人
- 定住はせず、**牛・羊・ヤギ等の家畜遊牧で生計を立てる遊牧民**  
両国政府は定住化政策を勧めるが、伝統的な遊牧生活を希望
- **牛は最も重要な財産**で、牛の受け渡しにより「通貨」として機能
- **一夫多妻制**で牛を多く持つ男は何人も妻をめとることができる
- **垂直ジャンプ**でより高く跳べる男性は、綺麗な女性をめとることができる
- **成人男性は猛獣退治や牛の放牧**を行うが、**普通の仕事は女性・子供が行う**
- サバンナでの生活に必要な驚異的視力(3.0～8.0程度)と暗視能力を持つ
- 伝統的**主食は牛乳と牛の生血**、近年では芋類や米などの炭水化物も食べる  
肉は客人が来た時などに食用。**魚類は食べず、野菜もほとんど食べない**
- 村ごとに長老がいて物事を決定する原始的な長老制をとる
- **伝統的な色は赤**で衣服や化粧に赤をよく使う
- 本来裸足であったが、最近は**古タイヤを切り抜き加工したサンダル**を履く
- マサイ族は12～15才になると割礼(男女共に)を行う習慣がある

マサイ村では、男性は垂直ジャンプ  
女性は肩を揺らして踊り、観光客を歓迎



マサイ村で手作りの置物・装飾品などを展示販売







マサイ族の伝統的な村と住居（トイレは別棟）  
電気や通信設備は一切なく、飲料水はタンクで購入

マサイの  
住居入口



- 伝統的住居は牛糞と泥をこねて作った掘っ立て小屋、雨風は防げる
- 10戸程度の小屋をサークル状に配置し、外側を木の柵とアカシア枝のとげで囲む
- 夜になると放牧している家畜はサークルの内側に入れ、猛獣などの外敵から守る

© A Yamamoto 2023

71

中は薄暗いが、しばらくすると目が慣れてくる  
原始的生活でかまどなどがある



マサイ村の中にある掘っ立て小屋の幼稚園  
英語の数字とアルファベットの読み方を子供が実演してくれた

**火をおこす**



マサイのナイフの上に柔らかい木を置き、木の穴部分をアカシアの固い木の枝で何回も擦る



煙が出てきたら、口で拭きながら糞と繊維でできた火種に火を移す  
5分位で火をおこせる

© A Yamamoto 2023

74

## サファリでの宿舎・食事 エンターテインメント

- ・ンゴロンゴロ保全地域
- ・セレンゲッティ国立公園

ンゴロンゴロン外輪山の中にあるサファリコテージ、標高2300mで夜は冷え込む土地の石や木材を上手く活用し、動物のモチーフを各所に取り込んだデザイン








セレンゲッティのロッジ敷地内に  
迷い込んできたガゼル

夕食前にロッジで民族衣装のマサイによる歌と踊りのショー



## Airstrip

Airport (空港) に比べ、簡素な施設のみがある飛行場。通常短い滑走路が1本で舗装されていない場合が多い。離発着できる飛行機は小型飛行機やヘリコプターのみ。管制塔や燃料倉庫、整備施設、通関施設なども簡易なものに限定される。

### <セロネラ飛行場>

セレンゲッティ国立公園の中央にある小さな飛行場  
タンザニア国内や隣国ケニアなどにも運航  
**滑走路が草りまスタッフがマテ作業!**

(荷物検査していないゾーン)

駐車場、トイレ、売店への行き来が自由

(荷物検査後のゾーン)

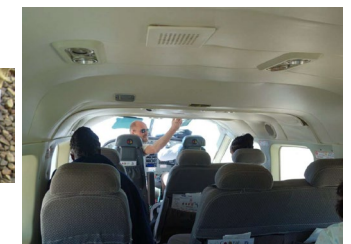
待合室 (※トイレに行きたければ出入り可能)

© A Yamamoto 2023



87

セレンゲッティ国立公園から、セスナ機でダルエスサラームへ



- 客席12人乗りのセスナ機
- 機長はベテランのドイツ人でした
- 操縦席は仕切りなしで何をしているかが丸見え
- 荷物スペースが狭いため、大型スーツケースは乗せられず、60x40x30cm程度以下のソフトバッグに入れる

飛行場入口の床にはライオンの足跡をデザイン



ダルエスサラームの中心街にある  
イスラム風ホテルに宿泊  
(Dar Es Salaam Serena Hotel)



ダルエスサラーム街中にある  
有名な芸術村「ティンガティンガ」を見学



ホテルロビーでも  
ティンガティンガの絵を展示販売



タンザニアの手作り民芸品を扱う  
街道沿いの大きな土産物屋

© A Yamamoto 2023

94

## タンザニアでのエコ活動

### <事例紹介>

### 2019年6月1日からケニア・タンザニアへの プラスチック袋の持ち込みが禁止

(タンザニア政府発表)

タンザニアでは2019年6月より、すべてのビニール袋の輸入・輸出・製造・販売・保管・供給および使用が禁止。但し、医療・工業製品・建設業・農業部門・食品・衛生および廃棄物管理用のプラスチックまたは包装は禁止の対象外。

(旅行者への注意喚起)

空港内で購入した商品は袋から出し、到着前に袋を処分すること。  
機内へ液体物を持込用のジップロック袋など、原則自国に持ち帰る予定のビニール袋類は対象外。買  
い物をした際のビニール袋は撤廃され、エコバッグ持参か不織布バッグの使用が義務付けられた。違反  
者には厳しい罰金(最大1週間の禁固もしくは87ドルの罰金)が課せられる場合がある。

(持ち込み禁止の理由)

土地の人だけではなく、旅行者に対してもプラごみのポイ捨て等による環境汚染・海洋プラスチック投棄  
問題への教育・エコ意識高揚であり、特に動物や鳥・魚・生き物が誤ってプラスチックを食べないための  
取り組みと思われる。



## タンザニア進出の日系企業

### <事例紹介>

#### ○ 国際協力機構（JICA）2021年「タンザニア進出に向けた基本情報」

<https://www.jica.go.jp/Resource/tohoku/topics/2020/ku57pq00000mb5eu-att/ku57pq00000mb5gu.pdf>

（日系企業進出状況）

- 在タンザニア日本人会商工部会（2021年1月時点）  
正会員数：13社・団体（主に建設、商社、旅行会社等）
- 在留邦人（2019年10月時点）  
292名（長期滞在者）
- 民間企業拠点数（2019年10月時点）  
37社（海外支店9社、現地法人10社、合弁企業7社、日本人企業11社）

## タンザニアにおける日系企業進出

タンザニアに拠点を置く日本企業の数に限られているものの、その数は近年増加している

北部のアルーシャでは、**住友化学**株式会社が農業化学品の市場調査と研究・開発を目的とした子会社「住友化学イーストアフリカ社」を設立し、現地企業との合併会社で**マラリア予防用に防虫剤を練り込んだ蚊帳「オリセット・ネット」**を製造

タンザニアにおいて塗装された**トタン屋根**の需要が拡大していることから、2017年8月に**関西ペイント**が進出し、**防蚊成分を含む漆喰塗装の普及**も目指している

その他、日本人旅行者に対するサービスを中心とした旅行代理店、道路建設等のODA事業、ガス火力発電所建設、日本からタンザニアへの輸出品目第一位である中古車の輸入、地方電化に携わる会社（**WASSHA**）、中古車販売・部品販売など、様々な分野で日系企業が活躍している

## 鹿島建設： アフリカの大地で社会基盤整備に参画

1970年以降タンザニアでは日本政府による無償援助プロジェクトとして、橋梁をはじめ、数々の道路、農業用水路などの施工に従事。

- ・サレンダー橋拡張工事
  - ・食料倉庫新築工事
  - ・ダルエスサラーム道路改善計画
  - ・南部橋梁工事（PC橋梁）下部工・上部工の施工管理業務
  - ・ダルエスサラーム都市圏 キルワ道路整備計画
  - ・ダルエスサラーム都市圏 キルワ道路拡幅計画Ⅱ期
- |                |           |
|----------------|-----------|
| 鉄骨製作・建方の施工管理業務 | 1980      |
|                | 1989～1990 |
|                | 1997      |
|                | 1997～1999 |
|                | 2005～2009 |
|                | 2012～2014 |

ダルエスサラーム都市圏 キルワ道路整備計画 工事完成式典関係者



事業位置図



本事業により整備された道路



## ★Tanzania Pole Pole Club - アフリカに緑を - (1997年設立：世田谷)

<https://polepoleclub.jp/news/> (ポレポレ：スワヒリ語で「ゆっくり」)

地球規模で進む環境の荒廃、劣化に対して人類が警鐘を鳴らしてすでに久しい。砂漠化が進むアフリカにおいても、タンザニアは高い人口増加率も相まって、ナイジェリアに次ぐ2番目の森林消失国（面積）となっています。同国では1990年からのわずか25年の間に約2割の森林が失われましたが、これは毎年東京都の面積の2倍、約40万ヘクタールの森林が失われていることを意味しています。

こうした森林減少の影響は、降雨の減少や水源の枯渇など人々を取り巻く気候・環境の変化となって現れており、土地荒廃や農業生産性の低下、森林資源の不足となって人々の生活を脅かしています。

タンザニアにおける森林減少の大きな要因として、高い人口増加率を背景とした薪炭材需要の増大など、人々による森林資源の消費が挙げられています。しかしその一方で、同国ではこのような環境の荒廃を少しでも食い止め、さらには回復させていくと多くの草の根レベルでの取り組みがされています。

現地で進む環境劣化に「息長く」立ち向かっていくためには、そこに暮らす人々自身の手による「持続的な」環境保全活動の実現が欠かせません。

タンザニア・ポレポレクラブは、キリマンジャロ山で約25年にわたり「森林保全」「収入向上」「生活改善」を3本柱とした活動にも取り組んでいます。